

ずっとたいせつにしたい 日常のたからもの

vol.80

周りを見わたすと、いつまでも変わらないもの、時とともに変わっていくもの、新しく生まれるものがあるところ。日常にある宝ものをずっと大切にしたい。



▲ 美しくなった大日如来坐像（中央）



▲ 猫入り涅槃図（小綱町文化財保存会提供）



▲ 涅槃図に描かれた猫（上）
（小綱町文化財保存会提供）

正蓮寺大日堂と大日如来（下）

正蓮寺大日堂（小綱町）と言えば、本尊の大日如来坐像（国重要文化財）が有名です。鎌倉時代の院派（京仏師）の作品と考えられ、ふくよかな顔と体をした像高1・48mの優品に魅了されます。市内に2体しかない重文に指定された仏像の1体です。

大日如来は仏教の教えの一つ、真言密教の教主で、宇宙の中心的存在です。名仏師の運慶が作った奈良市・円成寺の平安時代末期の国宝坐像が代表例で、ご存知の方もおられるでしょう。

美術院国宝修理所は昨年5月から今年3月、大日堂坐像の金箔の剥落止めやホコリの除去を国や県、橿原市の補助金と朝日新聞文化財団の助成金で実施。坐像は美しい金色の輝きを取り戻しました。「大日さん」と呼んで親しむ住民は大いに喜んでいました。

小綱町文化財保存会（下記にQRコード）は9月20、23、25、26日に大日堂内の夜間拝観を行い、江戸時代の珍しい「猫入り涅槃図」も特別公開します。10月10日午前中には大日如来坐像の修復記念式典もあり、雅楽が奉納されます。

